

第7回 三重県議会「トップセミナー」について

趣 旨

来年（平成25年）は式年遷宮や日台観光サミット、再来年（平成26年）には熊野古道世界遺産登録10周年など、三重県観光はこれから重要な時期を迎えることから、特に式年遷宮との関わりを中心とした地域の活性化や観光の在り方について、長年にわたり、神宮史を研究されている岡田氏から提言いただく。

日時・場所

平成25年1月17日（木） 本会議終了後（13時～）

三重県議会議事堂 3階 全員協議会室

講師・演題

「式年遷宮を契機とした地域の活性化」

講師：岡田 登（おかだ のぼる）氏 （皇學館大学文学部 教授）

【講師紹介】

岡田 登（おかだ のぼる）氏

1952年、三重県四日市市生まれ。74年皇學館大学文学部卒業、78年皇學館大学大学院文学研究科博士後期課程国史学専攻中退。98年皇學館大学教授。2009年皇學館大学資料編纂所所長。

専門分野は日本考古学、日本古代史、神宮史。伊勢市史編さん委員会委員。四日市市久留倍官衙遺跡整備検討委員会委員。朝日カルチャーセンター名古屋教室講師（『日本書紀』と考古学）。

< 著書、論文等 >

「志摩市制5周年志摩のあけぼの展 - 考古資料からみた志摩の歴史 -」（平成22年）「磯部町史」（平成9年共著）「紀勢町史記録編」（平成13年共著）「多度町史資料編1 考古・古代・中世」（平成14年共著）「伊勢市史第6巻考古編」（平成23年共著）「伊勢大神宮寺としての逢鹿瀬寺について」（昭和61年）「伊勢神郡内建立の大雷寺をめぐって」（平成15年）「伊勢朝日郎の誅伐と宝塚古墳群」（平成17年）など多数。

